

今の特集

【業務用向けの米の販売実態について】

中食・外食等の業務用需要は、今後も堅調な需要が期待されます。

そうした中で、現状では、主食用米全体の需給は均衡している中、

- 産地においては、高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い
- 一方、買い手においては、3割を占める低価格帯中心の業務用などにも対応した米生産へのニーズがあり、ここにミスマッチが生じている状況です。

一般家庭用、業務用それぞれの需要に応じた生産・販売の取組を進める必要があり、それを行わない場合には、結局、国内主食用米需要全体の一層の減少につながります。

今般、産地での需要に応じた生産・販売の取組に資するよう、平成28年度に引き続き、業務用向けの販売実態を調査しました。

－本調査にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。－

※ 以下、期間について、28/29年は平成28年7月から平成29年6月までの1年間。

1 県産米に占める販売先割合（業務用向けの販売割合が高い上位10県）

- ・ 主食用米の需要が年々減少する中、業務用需要は堅調に推移しており、28/29年の業務用向け販売割合は、前年比+2%の39%となっている。
- ・ 各産地が需要に応じた生産・販売を進める上で、業務用需要の確保が重要となる中、群馬、福島、岡山、栃木では業務用向けの販売割合が6割超となっている。

【28/29年】

全国

業務用向け
39%

家庭内食向け等
61%

【前年:27/28年】

全国

業務用向け
37%

家庭内食向け等
63%

注：家庭内食向け等とは、精米販売量全体から業務用向け販売量を差し引いたものである。

業務用向けの販売割合が高い上位10県

【28/29年】

【産地】	【業務用向け】	【家庭内食向け等】
1 群馬	65%	35%
2 福島	65%	35%
3 岡山	63%	37%
4 栃木	63%	37%
5 宮城	57%	43%
6 山口	56%	44%
7 山形	55%	45%
8 佐賀	55%	45%
9 岩手	52%	48%
10 青森	51%	49%

【前年:27/28年】

【産地】	【業務用向け】	【家庭内食向け等】
1 栃木	67%	33%
2 福島	64%	36%
3 岡山	60%	40%
4 山形	59%	41%
5 熊本	58%	42%
6 山口	57%	43%
7 群馬	56%	44%
8 宮城	53%	47%
9 佐賀	50%	50%
10 香川	49%	51%

2 県産米に占める販売先割合（全体版・産地品種銘柄別内訳）

【28/29年】

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）					家庭内食向け等
北海道	33%	ななつぼし 18%	きらら397 6%	ゆめぴりか 4%	その他 5%	67%
青森	51%	まっしぐら 40%	つがるロマン 11%	その他 0%		49%
岩手	52%	ひとめぼれ 44%	あきたこまち 5%	いわてつこ 1%	その他 2%	48%
宮城	57%	ひとめぼれ 51%	ササニシキ 2%	つや姫 1%	その他 3%	43%
秋田	21%	あきたこまち 12%	ひとめぼれ 4%	めんこいな 2%	その他 2%	79%
山形	55%	はえぬき 46%	ひとめぼれ 4%	つや姫 1%	その他 5%	45%
福島	65%	コシヒカリ 44%	ひとめぼれ 16%	天のつば 2%	その他 2%	35%
茨城	45%	コシヒカリ 38%	あきたこまち 4%	ゆめひたち 0%	その他 2%	55%
栃木	63%	コシヒカリ 51%	あさひの夢 9%	なすひかり 2%	その他 2%	37%
群馬	65%	あさひの夢 50%	ゆめまつり 10%	その他 4%		35%
埼玉	50%	彩のかがやき 18%	コシヒカリ 16%	彩のきずな 6%	その他 10%	50%
千葉	29%	コシヒカリ 15%	ふさこがね 9%	ふさおとめ 3%	その他 2%	71%
新潟	19%	コシヒカリ 12%	こしいぶき 5%	その他 2%		81%
富山	32%	コシヒカリ 25%	てんたく 4%	その他 3%		68%
石川	41%	コシヒカリ 24%	ゆめみづほ 12%	その他 5%		59%
福井	26%	コシヒカリ 11%	ハチエチゼン 8%	その他 7%		74%
山梨	44%	コシヒカリ 38%	あさひの夢 1%	その他 4%		56%
長野	38%	コシヒカリ 32%	あきたこまち 5%	その他 1%		62%
岐阜	39%	ハツシモ 23%	コシヒカリ 5%	あきたこまち 0%	その他 10%	61%
静岡	10%	コシヒカリ 5%	あいちのかおり 1%	きぬむすめ 1%	その他 3%	90%
愛知	26%	あいちのかおり 20%	コシヒカリ 2%	大地の風 0%	その他 4%	74%
三重	23%	コシヒカリ 12%	キヌヒカリ 4%	その他 6%		77%

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）					家庭内食向け等
滋賀	38%	日本晴 10%	キヌヒカリ 10%	コシヒカリ 7%	その他 10%	62%
京都	32%	キヌヒカリ 13%	コシヒカリ 12%	その他 6%		68%
大阪	32%	その他 32%				68%
兵庫	28%	コシヒカリ 12%	キヌヒカリ 11%	ヒノヒカリ 2%	その他 3%	72%
奈良	16%	ヒノヒカリ 14%	コシヒカリ 1%	その他 1%		84%
和歌山	39%	その他 39%				61%
鳥取	35%	ひとめぼれ 16%	きぬむすめ 11%	コシヒカリ 8%	その他 0%	65%
島根	31%	きぬむすめ 16%	コシヒカリ 8%	つや姫 6%	その他 1%	69%
岡山	63%	アケボノ 25%	ヒノヒカリ 5%	あきたこまち 2%	その他 32%	37%
広島	30%	コシヒカリ 7%	ヒノヒカリ 5%	あきろまん 2%	その他 16%	70%
山口	56%	ヒノヒカリ 15%	コシヒカリ 14%	ひとめぼれ 8%	その他 20%	44%
徳島	29%	コシヒカリ 16%	キヌヒカリ 12%	その他 1%		71%
香川	36%	ヒノヒカリ 26%	コシヒカリ 4%	その他 5%		64%
愛媛	22%	ヒノヒカリ 7%	あきたこまち 3%	コシヒカリ 3%	その他 9%	78%
高知	11%	コシヒカリ 9%	ヒノヒカリ 1%	その他 1%		89%
福岡	30%	ヒノヒカリ 20%	元気つくし 5%	夢つくし 2%	その他 3%	70%
佐賀	55%	ヒノヒカリ 21%	さがびより 18%	夢しずく 8%	その他 8%	45%
長崎	20%	にこまる 7%	ヒノヒカリ 5%	コシヒカリ 4%	その他 3%	80%
熊本	36%	ヒノヒカリ 12%	森のくまさん 8%	コシヒカリ 4%	その他 11%	64%
大分	29%	ヒノヒカリ 22%	ひとめぼれ 3%	その他 4%		71%
宮崎	9%	ヒノヒカリ 5%	コシヒカリ 2%	その他 2%		91%
鹿児島	24%	ヒノヒカリ 13%	あきほなみ 7%	コシヒカリ 2%	その他 1%	76%

注1：業務用向けの販売先は、コンビニストア、スーパー、弁当屋、給食事業等の中食事業者及び牛丼、回転寿司等のファーストフード店、ファミリーレストラン、ホテル等宿泊施設等の外食事業者である。

注2：業務用向け販売量が、10トン未満であった東京、神奈川、沖縄は除いている。

3 業務用販売全体に占める産地品種銘柄別割合（上位20）

- ・ 前年から大きな変化はなく、北海道、東北などの主産地の米が上位を占めている。
- ・ 中でも、宮城ひとめぼれ、山形はえぬき、栃木コシヒカリの3銘柄は、前年に引き続き割合が高く、3銘柄の合計が販売量全体の2割超となっている。

【28/29年】

	産地	品種銘柄	割合	
1	宮城	ひとめぼれ	8%	} 22%
2	山形	はえぬき	7%	
3	栃木	コシヒカリ	7%	
4	北海道	ななつぼし	5%	
5	岩手	ひとめぼれ	5%	
6	福島	コシヒカリ	4%	
7	茨城	コシヒカリ	4%	
8	青森	まっしぐら	4%	
9	秋田	あきたこまち	3%	
10	新潟	コシヒカリ	2%	
11	北海道	きらら397	2%	
12	福島	ひとめぼれ	2%	
13	富山	コシヒカリ	2%	
14	長野	コシヒカリ	1%	
15	北海道	ゆめぴりか	1%	
16	栃木	あさひの夢	1%	
17	石川	コシヒカリ	1%	
18	千葉	コシヒカリ	1%	
19	青森	つがるロマン	1%	
20	新潟	こしいぶき	1%	

【前年:27/28年】

	産地	品種銘柄	割合	
1	山形	はえぬき	9%	} 25%
2	宮城	ひとめぼれ	9%	
3	栃木	コシヒカリ	7%	
4	福島	コシヒカリ	5%	
5	茨城	コシヒカリ	4%	
6	北海道	ななつぼし	4%	
7	青森	まっしぐら	4%	
8	岩手	ひとめぼれ	4%	
9	秋田	あきたこまち	3%	
10	北海道	きらら397	2%	
11	新潟	コシヒカリ	2%	
12	栃木	あさひの夢	1%	
13	富山	コシヒカリ	1%	
14	長野	コシヒカリ	1%	
15	福島	ひとめぼれ	1%	
16	青森	つがるロマン	1%	
17	千葉	ふさがね	1%	
18	秋田	ひとめぼれ	1%	
19	石川	コシヒカリ	1%	
20	千葉	コシヒカリ	1%	

※ 割合は、各産地品種銘柄ごとの業務用向け販売量を、全国の業務用向け販売量で除したものである。

4 業務用向けの価格帯別販売量

- ・ 業務用向けに販売された産地品種銘柄ごとに、28年産の相対取引価格（年産平均）を用いて、価格帯別の販売量をみると、14,000円/60kg未満の銘柄が約7割となっており、前年に引き続き、全銘柄平均価格以下の取引が大宗を占めている。

【28年産】

価格帯（60kg当たり、税込み）	割合	
16,000円以上	5%	28年産 全銘柄平均価格 14,307円
15,000円以上16,000円未満	3%	
14,000円以上15,000円未満	22%	
13,000円以上14,000円未満	68%	
13,000円未満	2%	

} 70%

【27年産】

価格帯（60kg当たり、税込み）	割合	
15,000円以上	5%	27年産 全銘柄平均価格 13,175円
14,000円以上15,000円未満	4%	
13,000円以上14,000円未満	13%	
12,000円以上13,000円未満	62%	
12,000円未満	16%	

} 78%

平成28年7月から平成29年6月までの1年間において、年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が、精米販売を行った数量（約330万トン）のうち、業務用向けに販売した数量について調査を実施。（対象業者225社 回収率99.6%）

<当データを見る上での留意事項>

- ▶ 販売事業者が、業務用向けに精米販売した数量であり、小売店等に精米販売し、その後、業務用に仕向けられたものは含まれていない。
- ▶ 業務用向けの販売先は、コンビニエンスストア、スーパー、弁当屋、給食事業等の中食事業者及び牛丼、回転寿司等のファーストフード店、ファミリーレストラン、ホテル等宿泊施設等の外食事業者である。
- ▶ 業務用向けには、主に米卸売業者から供給されるが、家庭内食向けには、米卸売業者経由の他に農家直売や縁故米等からも供給されるため、米卸売業者からの供給量のみで作成した当データは、業務用向けの割合が高くなる傾向がある。